

特集にあたって

福田正人*

学習指導要領が改訂され、2022年度から高校の保健体育において精神疾患についての教育が始まった。ユース世代にとって最も重要な健康がメンタルヘルスであることを踏まえた前進である。半世紀前には、教科書においてさえ精神疾患について誤解と偏見に基づく記載があったが、社会は学校教育がメンタルヘルスの現状に追いつくことを求めている。

がんや生活習慣病と比べて、精神疾患についての学校教育には大きな特徴がある。それは、教育を受ける生徒や同級生が精神疾患を持つ場合があることである。いずれ関係するかもしれない病気として知識を提供するだけでなく、「今の自分や友達のこ」として実践に結びついた教育が必要となる。

精神科医は、生徒の診療を通じて学校とかわることはあっても、学校における教育に直接携わることは少ない。しかし、高校での精神疾患教育を機に、学校教育へのかかわりがより求められるようになると考えられる。そこで出会うのは、精神疾患を持つ生徒、「病気未満」の心の悩みをもつ生徒、友達や家族を支えている生徒、ネットの歪んだ情報に振り回されている生徒など、さまざまである。

そこで、学校における精神疾患教育に携わっている専門職の方々にこれまでの取り組みや新しい展開をご紹介いただくとともに、当事者や家族や教員の立場から高校での精神疾患教育への期待と思いを語っていただく特集を企画した。いずれの原稿も、診療場面でのかかわりとは別の配慮と工夫が必要なことを指摘し、精神疾患啓発について精神科医に学びと経験を求めている。

今年から始まった高校の精神疾患教育が10年20年と積み重なっていくことで、社会のメンタルヘルスリテラシーが確実に変わっていくことが期待される。それは「こころの健康社会」に向けた一歩となっていく。本特集が、普段の読者である精神科医だけでなく、教育委員会、保健体育の高校教員、保健室の養護教諭に届くことを期待している。

* 群馬大学大学院医学系研究科神経精神医学(☎ 371-8511 群馬県前橋市昭和町 3-39-22)



図 ユースに向けたメンタルヘルス支援の3冊子
(群馬大学地域貢献事業で作製)

企画者は群馬大学の地域貢献事業で、学校で精神疾患を学んだ生徒向けの冊子『君のことを気にかけている、親の思い保健室のつぶやき』、ユースがSOS発信をしやすいLINEスタンプの作成を紹介した冊子『どこからはじめる？ ユース世代のこころの健康』、ユースに特有なコロナ禍メンタルヘルスの支援を目指した冊子『これから、自分の人生どうなるの？—コロナ禍で不安になった君へ。』を作製してきた(図)。

いずれも高校生や中学生を読者に想定し、自由に利用できるようPDFを群馬大学精神科のホームページで公開しているの、ファイルを広めたり印刷して冊子として配布するなど、ご活用いただけますと幸いです(<https://psychiatry.dept.med.gunma-u.ac.jp/>)。また、信頼できるメンタルヘルス情報を紹介するサイト『こころの健康図鑑』で、「学校」のカテゴリーから教育向けに役立つ情報を得ることができます(<https://kokoro-zukan.com/>)。